

Zenken : 茨城県『介護職種技能実習生等 国家試験対策支援事業』を受託

25.04.07

本研修事業は、茨城県内の介護人材不足の解消と定着を目的とした県の事業で、特定技能1号や技能実習などで受け入れた外国人介護人材を支援します。これらの人材には最長5年という在留期間が定められていますが、介護福祉士国家試験に合格することで「介護」の在留資格を取得でき、永続的に日本の介護現場で働き続けることが可能になります。

今回、Zenkenは茨城県内の外国人介護人材を対象に、日本語の習得ならびに介護知識の定着を強化するための通年型の研修を実施します。研修の主な目標は、介護福祉士国家試験の合格を達成することです。具体的には、介護福祉士国家試験の出題範囲である4領域12科目をカバーし、受講生一人ひとりにサポーターをつけ、個別に弱点を把握し、克服をサポートするきめ細かい研修を提供します。この体制により、受講者が試験に合格するための支援を行います。

Zenken、茨城県より「令和7年度 介護職種技能実習生等国家試験対策支援事業」を受託

～外国人介護人材に通年型の研修を実施～

Zenken株式会社 2025年4月7日 12時00分



出典 : <https://prt看times.jp/main/html/rd/p/000000561.000006978.html>

Zenken株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：林 順之亮、以下 Zenken）は2025年4月1日、茨城県から「令和7年度介護職種技能実習生等国家試験対策支援事業」を受託しましたのでお知らせいたします。

茨城新聞：24年の熱中症労災 県内44人 —実習生死亡事案も

25.05.03

茨城県内の24年熱中症労災が報じられました。被災者は44人で実習生の死亡事案も含まれます。高温下での作業リスクが再確認されました。予防策の徹底と教育の強化が求められます。

水分・塩分補給や休憩の確保が重要です。新入者や外国人への多言語指導が必要です。現場の監督体制と記録の整備が課題です。企業と行政の連携で再発防止を図ります。

季節前の準備と訓練が効果的と示されました。

2024年の熱中症労災 茨城県内44人、3人死亡 08年以降で最悪 茨城労働局まとめ

2025年5月3日(土)

茨城の求人情報
エリア検索
キーワード検索

茨城労働局(佐藤悦子局長)は2日、茨城県内の職場で2024年に熱中症により44人が死傷(休業4日以上)し、集計を始めた08年以降で最悪となったと発表した。うち3人は死亡しており、県内の職場では4年連続で死者が出ている。6月1日から事業所に職場での熱中症対策が義務付けられるのに合わせ、同局は啓発に取り組む。

月別に見ると、6月が3人、7月が23人(うち死亡2人)、8月が14人(同1人)、9月が4人だった。業種別では、運送が最多13人で、次いで製造が7人、その他が6人。時間帯別では午後2時台が10人と最も多かった。

同局によると、県内の職場で熱中症による死者は21年に1人、22年に3人、23年に1人。死亡事案は4年連続で発生している。



茨城労働局(実科専攻)

出典：https://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=17461937601373

茨城県：特定技能インド人材等受入促進 事業動画制作の公募を告知

25.05.07

 茨城県 Ibaraki Prefectural Government

文字サイズ・
色合い変更

防災・安全 くらし・環境 健康・医療・福祉 子育て・教育 観光・文化・スポーツ

令和7年度特定技能インド人材等受入促進事業 動画制作 業務委託 企画提案募集について

茨城県では、令和7年度特定技能インド人材等受入促進事業 動画制作業務委託について、下記のとおり公募型プロポーザルを実施します。

なお、詳細は、令和7年度特定技能インド人材等受入促進事業 動画制作業務委託に係る公募型プロポーザル実施要領（別添PDFファイル）を参照願います。

茨城県では、令和7年度特定技能インド人材等受入促進事業 動画制作業務委託について、下記のとおり公募型プロポーザルを実施します。

なお、詳細は、令和7年度特定技能インド人材等受入促進事業 動画制作業務委託に係る公募型プロポーザル実施要領（別添PDFファイル）を参照願います。

出典：<https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/fukujin/jinzaikakuho/20240507.html>

茨城新聞：不法就労増に危機感— 摘発が全国最多、監理団体が対策を議論

25.06.09

技能実習生を農家などに斡旋する茨城県内の監理団体が、不法就労者の増加に危機感を募らせている。出入国在留管理庁のまとめによると、2024年に県内で摘発された不法就労者は3452人に上り、3年連続で全国最多。不法就労防止を巡っては、外国人材のさらなる活用を目指す県も対策に乗り出しており、今後は官民連携による対策が期待される。

監理団体は技能実習生受け入れを検討する事業者の依頼に基づき、実習生の募集や受け入れに関する各種手続きを代行したり、受け入れ先に対する指導や監査などを行ったりする組織。外国人技能実習機構によると、県内では計156団体が登録されている(3月25日現在)。

出入国在留管理庁によると、24年に全国で摘発された不法就労者は1万4453人で、増加率は新型コロナウイルス禍前の19年に比べ12%増だった。県内は同62%増で、就労先は農業が全体の75%を占めた。24年の摘発のうち、国別で最も多かったのはタイの1487人で、ベトナム799人、インドネシア576人と続いた。

茨城大学GEC：留学生向け『和菓子作り体験』を実施

25.06.20

2025年6月10日(火)、留学生を対象とした「和菓子作り体験」を実施しました。今回は、水戸市内で「nico nico time和菓子教室」を主宰されている内山麻里先生を講師にお迎えし、日本の伝統的な菓子文化について学びながら、実際に和菓子作りを体験しました。

体験では、春から初夏にかけて咲く花「紫陽花(あじさい)」と「四葩(よひら)」をモチーフにした練り切りを制作しました。繊細な色使いや細やかな成形に苦戦しながらも、参加した留学生たちは真剣な表情で取り組み、完成した和菓子を見て喜びの笑顔を見せていました。

体験後は振り返りの一環としてポスターを作成し、参加した学生からは「初めて練り切りを作って、日本の季節感や伝統の美しさを実感しました」や「落とし文という文化も面白く、和菓子を通じて日本をもっと知ることができました」といった声が聞かれました。



茨城新聞：育成就労制度を解説― 県受入団体協議会が水戸で総会

25.06.20

技能実習生の監理団体でつくる茨城県外国人受入団体協議会(埜長一郎会長)は19日、同県水戸市緑町の県青少年会館で初の総会を開いた。

不正防止と透明性確保の必要性が強調されました。現場の課題に即した支援策が議論されました。関係機関連携による継続的な取組を確認しました。

定着につながるフォロー体制の整備が課題です。地域理解の促進に向けた発信も求められました。実務者に役立つ最新情報の共有が行われました。

出典：https://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=17503390570209

八千代町人権尊重で条例 技能実習生増

県内で初

2025.12.13

八千代町は12日、社会的弱者とされる人に対する、あらゆる差別を防ぐための「人権尊重のまちづくり条例」を公布、施行した。町内で暮らす外国人や高齢者、障害者らの人権擁護を求める内容。地方自治研究機構（東京都）によると、近年、こうした条例を制定する動きが広がっており、県内では初という。町によると、条例は世界人権宣言の理念や、基本的人権の享有と法の下での平等を定めた日本国憲法の理念を取り入れた。新たな課題の一つとしてインターネットによる人権侵害を挙げた上で、「お互いの人権を尊重し、多様性を認め合う社会の実現を目指す」と掲げた。罰則はない。



読売新聞オンライン

茨城：八千代町人権尊重で条例 県内で...

茨城県古河市で「異文化理解の始め方をテーマ」にした市民向け学習会を開催

2025.12.10

古河市にて「地域の多様性理解のための学習会」が開催されました。この学習会は、古河市が策定した「多文化共生推進方針」に基づき、市民の多文化共生への理解促進を目的とした取り組みです。JICA筑波は、市との連携覚書に基づき講師を派遣し、異文化理解をテーマにした講演とワークショップを実施しました。今回の学習会では、JICA筑波から国際協力推進員の大貫国際協力推進員が講師を務め、「古河でくらす外国人から世界を知る～異文化理解の始め方～」をテーマに、講演とワークショップを実施しました。ワークショップでは、ネパール出身の女性「レヌカさん」の生活を題材に、日本とネパールの文化や価値観の違いを考えるカードゲームを実施。参加者はグループに分かれ、異文化に対する自分の思考の癖に気づく体験をしました。



茨城県より「令和7年度外国人介護人材 受入環境整備事業業務委託」を受託

2025.11.12

Zenken株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：林 順之亮、以下「Zenken」）は、茨城県より「令和7年度外国人介護人材受入環境整備事業業務委託」を受託いたしました。本事業では、外国人向け介護教育で豊富な実績を持つ日本福祉教育専門学校（日本介護研修センター）と連携し、外国人介護職員と受入施設の日本人職員を対象とした基本無料の実践型研修を提供します。Zenkenが茨城県より受託した業務としては、現在実施中の「令和7年度介護職種技能実習生等国家試験対策支援事業」に続き、本年度2例目となります。



茨城県

Zenken

ダイセイ倉庫／2022年から外国人クルーの 定期採用を開始、定着率91.3%

2025.12.15

ダイセイ倉庫は12月15日、2022年から外国人クルー（社員・仲間）の定期採用を開始し、これまでに技能実習生を中心に計23名を採用、定着率は91.3%と高い水準を維持していると発表した取組は、外国人クルーの増加に伴い、2025年7月には専任のグローバル人事担当者（牧野さん）を配置し、採用・育成・生活サポートを一本化した。着任後すぐに入社初期に3週間の集合教育を導入。安全教育・日本語コミュニケーション・基本動作を体系的に学ぶ仕組みを構築し、現場配属後の早期戦力化に寄与している。



茨城県の介護施設でインド人介護人材との交流会を開催

2025.07.17

Zenken株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：林 順之亮、以下Zenken）は、茨城県の協力のもと、2025年8月6日に県内介護施設「社会福祉法人五霞愛隣会 きららの杜」で、インド人介護人材との交流会を開催。本イベントは、インド人材への理解を深めるとともに、介護現場における外国人介護人材の受け入れ体制の拡充を後押しすることを目的としています。インド人介護人材との交流を通じて、その人柄や価値観への理解を促し、インド人材の受け入れ拡大につなげることを目指します。



中小企業組合まつりin茨城「体験！実感！ いばらきお仕事フェア2025」

2025.12.14

県内の中小企業は、県全体の企業数の99.9%を占め、中小企業が雇用する従業員数は、全体の7割を占めるなど、県内経済の雇用の基盤を支えています。

しかしながら、中小企業を取り巻く経営環境は、少子高齢化を背景とする深刻な労働力不足や急激な物価上昇分を十分に価格転嫁できていないことに伴う利益の確保難など厳しい状況下にあります。課題を解決するためには、中小企業個々の経営努力では限界があり、企業と企業が連携し、組合等の連携組織を活用していくことが重要であるとともに、組合等の活動を広く周知していくことが必要です。さらに、未組織の中小企業に対して連携組織の重要性の理解を深めることも必要



いばらきお仕事フェア2025 チラシ 

出典：<https://www.ibarakiken.or.jp/>

書いて 舞って つながって 在留外国人が多い常総でワールドフェス

2025.11.05

「住民の10人に1人が外国人」という茨城県内最大の「エスニックタウン」常総市で1日、「JOSOワールドフェスタ2025」が開かれた。官民でつくる実行委員会の主催で、多文化共生の推進を掲げる市も共催で後押しする恒例イベントだ。参加者は「同じ市民として相互理解を深めたい」と、国籍の壁を越え、母国を紹介しあいながら交流を深めた。



JOSOワールドフェスタで書道パフォーマンスを披露する水海道二高書道部=2025年11月1日午前10時32分、茨城県常総市むすびまち、羽賀和紀撮影 

夏祭り♪ ✨ 🌻

8月上旬、茨城県下妻市で行われたお祭りに インド人実習生が参加しました。

2025.09.11

8月上旬、茨城県下妻市で行われたお祭りにインド人実習生が参加しました

。初めての祭り体験にとっても喜んでいて、「写真を撮たくさん撮ってほしい」「現地にいる家族に見せたい」と話していました日本の文化に触れられて嬉しかったようで、来年も参加したいという声も上がっていました。はっぴ姿もとても似合っていました！来年は太鼓も叩いてみましょうね♪



出典：<https://c-fuji.or.jp/topics/%E5%A4%8F%E7%A5%AD%E3%82%8A%E2%99%AA%E2%9C%A8%F0%9F%8C%9E/>

農業の不法就労ワースト1・茨城県 好立地、野菜王国ゆえの悩み

2025.11.26

入管庁によると、昨年1年間に入管法違反で退去強制または出国命令手続きとなった外国人のうち、不法就労は1万4453人いた。このうち農業従事者は5497人で、職種の中で最多。さらに、そのほぼ半数にあたる2596人の就労場所が茨城県だったのだ。他の業種を含めた県内の不法就労者の総数3452人は、3年連続で全国最多。その4分の3を農業従事者が占め、全体を押し上げる格好となっている。



商業施設での啓発イベントでは県職員や警察官らが買い物客にティッシュやビラを配り、外国人の不法就労防止に協力を呼びかけた = 茨城県下妻市のイオンモール下妻で2025年11月11日午後1時22分、千脇康平撮影

出典 : <https://mainichi.jp/articles/20251121/k00/00m/040/139000c>

中国人技能実習生が転落死、屋根上で 配管撤去の作業中

2025.08.27

27日午前8時10分ごろ、茨城県つくば市片田の工場で、中国籍の技能実習生程議さん（28）＝埼玉県吉川市中井＝が屋根上で配管撤去の作業中、天窓が割れて高さ約9メートルから地面に転落した。つくば署によると、頭を強く打つなどし、搬送先で死亡が確認された。署は詳しい状況を調べている。



結城技能実習生殺害 懲役12年 正当防衛主張退ける 水戸地裁判決 茨城

2025.12.06

茨城県結城市東茂呂の住宅で昨年12月、同居するベトナム国籍の男性を包丁で刺して殺害したとして、殺人の罪に問われた同国籍の技能実習生、グエン・チー・ティン被告(25)の裁判員裁判判決公判が5日、水戸地裁で開かれ、水戸地方裁判所は「生命に対する危険性の高い、執ようかつ、悪質な犯行だ」などとして懲役12年の判決を言い渡しました。



野菜王国、外国人頼み（その1） 「フホー」の影も 茨城・鉾田

2025.11.18

農業の担い手が不足する中、外国人の存在感が増している。代表格は特定技能や技能実習の在留資格を持つ人々だ。「外国人がいなければ収穫量は半減する」。国内屈指の農業県・茨城の農家からは、そんな声も漏れてくる。現場を歩いた。10月上旬、茨城県南東部に位置する鉾田（ほこた）市。「ガチャン、ガチャン」と規則的な機械音が農園の作業場に響き渡る。若い女性6人が慣れた手つきで水菜やハウレンソウを袋詰めし、段ボール箱にまとめていく。



水菜の出荷作業に従事するインドネシア人たち。技能実習生のグラセラさん（左）は「日本のアニメが好き」で実習先に日本を選んだという＝茨城県鉾田市で10月10日

「送別会の夜、眠っていた2人が刺された」 茨城インドネシア人殺傷

2025.11.10

「あの夜は僕たち3人組の送別会が開かれていた。僕以外の2人は眠っていた時に刺された」―。茨城県茨城町のアパートで先月19日未明に刃物で刺されたインドネシア人の男性1人が死亡、1人が瀕死の重傷を負った事件で、難を免れた友人の同国籍の男性が筆者の数回の取材に少しずつ口を開き、事件前後の現場の状況を証言した。



が起きたアパートの部屋のベランダ = ©米元文秋写す

出典 : <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/a50cf1b940e5f73e3ec26d3fec2428ffebbe1ed4>

「ホコタに行けば何とかなる」 を支える外国人労働者

野菜王国

2025.11.26

農業の担い手が不足する中、外国人の存在感が増している。代表格は特定技能や技能実習の在留資格を持つ人々だ。「外国人がいなければ収穫量は半減する」。国内屈指の農業県・茨城の農家からは、そんな声も漏れてくる。一方、農繁期はこうした正規ルートや日本人の労働力だけでは手が足りず、不法就労の外国人を使うケースが後を絶たない。

ニッポンの食卓の未来は、誰が支えていくのか。現場を歩いた。10月上旬、茨城県南東部に位置する鉾田（ほこた）市。

「ガチャン、ガチャン」と規則的な機械音が農園の作業場に響き渡る。若い女性6人が慣れた手つきで水菜やほうれん草を袋詰めし、段ボール箱にまとめていく。特定技能や技能実習の在留資格を持ち、この農園で働くインドネシア人たちだ。農園では現在30人近くの外国人を受け入れているが、農繁期は手が足りず、地域の中高年女性らの力も借りている。



水菜の出荷作業に従事するインドネシア人たち。技能実習生のグラセラさん（左）は「日本のアニメが好き」で実習先に日本を選んだという＝茨城県鉾田市で2025年10月10日午後3時32分、千脇康平撮影